

エチオピア都市部における伝統的ダンスーその特徴と新たな表現の創造ー

相原 進 (京都大学アフリカ地域研究資料センター研究員)

【発表要旨】

エチオピアは 80 以上の民族と 100 を越す言語が存在する、多民族・多言語国家である。エチオピアでは、帝政期より政策の一環として国内の各民族のダンスにかんする調査と上演がおこなわれてきた。2012 年以降、文化政策において文化をつうじた国家の調和と統合が目標のひとつとして掲げられた。国立劇場では既存の演目に民族的な偏りがあったことをふまえて各地での調査と新演目の創作に取り組むようになり、レストランなどで演じられるダンスにかんしても、対外的なイメージの向上と経済への貢献が期待されるようになった。しかし先行研究ではダンスにかんする民族誌的研究や宗教学的的研究がおこなわれてきた一方で、都市部のダンス研究はほとんどおこなわれてこなかった。

本発表では、国立劇場で演じられる伝統的ダンスにかかわる人びとの実践にかんする記述をとおして、エチオピア都市部における伝統的ダンスの特徴と、新たな表現の創造の過程を明らかにする。発表者は、演目の創作方法、プログラムの組み立て方、組織運営などに着目した調査を進めてきた。その結果、国立劇場のダンスには「地域・民族を単位として演目を立てる」「基本的な動作の組み合わせによって演目を創作する」という特徴があることがわかった。男性ダンサー全員の協力を得てグループインタビューと実演による調査をつうじて、国立劇場には 26 種類のダンス演目があり、そのなかには合計 262 種類の基本的な動作が含まれており、ダンサーたちは各演目における基本的な動作を組み合わせることで演目を創作していることがわかった。

このような創作方法の歴史的背景として、1969 年から 4 年間、アディスアベバ市内の音楽学校でダンス講座をおこなったハンガリー人のダンス研究者、ティボール・ヴァダシの影響について調査した。調査では講座の受講生を探し出し、聞き取りをつうじて、講座の内容が国立劇場におけるダンスの創作方法と密接にかかわっていることがわかった。さらに国立劇場に所属するダンサーの経歴やアマチュアグループにかんする調査により、ヴァダシによる練習や創作の方法が、アディスアベバにおいて広く受け継がれていることを明らかにした。

さまざまな民族のダンスについて、基本的な動作の創作による定式化がおこなわれる一方、個々のダンサーたちが独自に工夫したり、観客を楽しませるための演出を取り入れたりすることでダンス表現は創造され続け、多様化が進んでいる。調査では新演目「アリ」の創作をめぐる人びとの実践を事例とし、国立劇場において創作された演目がレストランに伝わる際の演出の変化を明らかにした。さらに基本的な動作の多様性にかんして、同一のダンサーに「国立劇場で踊る場合」「レストランのソロパートで踊る場合」「観客といっしょに踊る場合」という 3 つの状況を想定して基本的な動作を演じてもらい、これらを映像式モーショキャプチャによってデジタルデータ化して分析することをつうじて、状況に応じて生み出される多様な表現の特徴を明らかにした。



写真 1 国立劇場でのダンス
「シダマ」の上演



写真 2 レストランでのダンス
「アリ」の上演



写真 3 モーションキャプチャによる基本的な動作の収録